2009 March vol. $08\,$

新潟県立万代島美術館ニュース第8号

2009年度の企画展のご紹介

ことしも見どころたっぷりの様々な企画展を 準備しております(所蔵品展の紹介は4ページ目です)。

2月21日(土) - 4月19日(日) February 21 - April 19.2009

金GOLD 黄金の国ジパングと佐渡金銀山展

金は、古代から腐食しない金属として王冠や装身具に利用され、仏教の世界では仏像や仏具が金で装飾されました。また、桃山時代には金箔を多用した金壁障壁画が数多く制作され、江戸時代からはその貴重性から大判・小判などの貨幣としても利用されました。現在においては、工芸作品の素材として使用されるのみならず、情報機器などの工業製品の部品としても用いられています。この展覧会では、このような金を用いた様々な作品と共に、金鉱石や砂金、金の延べ棒といった金そのものも展示します。また、日本最大の金山である佐渡金銀山の歴史を、資料やパネルによって紹介します。



〈兵庫県中瀬金山の自然金〉 日本籍館蔵



《豊臣秀吉の黄金の茶室》 復元、SGC信州ゴールデンキャッスル蔵

5月2日(土) — 6月21日(日) May 2 - June 21,2009

美の視点 記憶のかたち

本展覧会では「記憶」をキーワードに、新潟ゆかりの作家9人の作品を取り上げます。各作品が織りなす「記憶のかたち」は私達の記憶とどこかで重なり、作品と向かい合うことによって心が静まったり、温まったり、ほっとしたり、うきうきしたり、驚いたりといった様々な感情が呼び起こされることでしょう。そして、その心の動きが「見る」ことの楽しみにつながり、美術作品、作家、美術館をより親しく感じていただけるきっかけにもなることでしょう。年代もジャンルも異なる9人の作家の個展形式によって会場を構成し、一人一人の活動をまとめてご覧いただける場ともなるこの展覧会。万代島美術館の新たな試みに、どうぞご期待ください。出品作家(五+音順) =稲田亜紀子、麻績勝広、小林充也、近藤充、杉原伸子、鶴巻貴子、西村満、星野健司、吉原悠博



杉原伸子 《ひかりのはこ #2》1997年



鶴巻貴子 (child nature チャイルドネーチャー) 2005年

7月4日(土) — 8月30日(日) July 4 - August 30,200

没後80年記念 佐伯祐三展

洋画家・佐伯祐三(1898-1928)がパリで没してから80年を迎えるのを記念し、佐伯の代表作品約100点によってその画業をたどる展覧会です。大阪に生まれた佐伯は、東京美術学校に学んだ後、ヨーロッパに旅立ちます。フォーヴィスムの巨匠ヴラマンクを訪問したことを転機に新たな表現に開眼し、独自の画風を築いていきます。その後、一時帰国はしたものの、パリへの思いは断ちがたく、再度パリに渡ります。そして、30歳という短くも情熱を燃やした生涯を閉じるのでした。本展では、佐伯の創造の軌跡を深く関わりのあった画家たちの作品とあわせて紹介し、佐伯芸術の成立とその広がりを展望します。



佐伯祐三《カフェ・タバ》1927年 個人蔵



佐伯祐三《郵便配達夫》1928年 大阪市立近代美術館建設準備室蔵

9月19日(土) — 11月29日(日) September 19 - November 29,200

ジブリの絵職人 男鹿和雄展 トトロの森を描いた人。

男鹿和雄はアニメーションの美術という仕事において、その作品の舞台となる背景画を数多く描き続けてきました。特にスタジオジブリ作品では「となりのトトロ」(1988年)に美術監督として初めて参加、昭和30年代の日本の澄んだ空気を鮮やかな色彩で表現し、本作にとって重要な役割を果たしました。その後も「魔女の宅急便」(1989年)、「おもひでぼろぼろ」(1991年)、「もののけ姫」(1997年)、「千と千尋の神隠し」(2001年)、「ハウルの動く城」(2004年)、そして「崖の上のポニョ」(2008年)といった多くの

作品に美術監督あるいは背景スタッフとして携わり、そこに描かれる美しい景色は、数多くの名シーンを支えてきました。本展ではスタジオジブリ作品のほか、それ以前に携わったアニメーション映画「幻魔大戦」(1983)や「時空の旅人」(1986)等の、背景画や美術ボードなどを中心に、作品点数



「となりのトトロ」背景画 ©1988二馬力・G



②1988二馬力·G

600点余りというかつてない規模で一堂に公開します。"絵職人"男鹿和雄の幅広い活動を一度にご覧頂ける、またとない機会となるでしょう。

ばんびのあゆみ 2008-09

2008年度も万代島美術館の展覧会をたくさんの方が見に来てくださいました。ご覧になったみなさんからいただいた声をご紹介します。

相澤コレクション: そばにおきたい絵

4858(+)~58118(B)



- 相澤美術館が閉館になってがっかりしていたが、今回コレクションに出会えてよかった。陶芸などもまたの機会に見せてほしい。難波田親子は良い。(50代男性)
- 相澤コレクションがこんなに素晴らしいとは!県は宝を手に入れたと思う。万代島だけでなく長岡 の近代美術館でも見たい。また、これだけいいものはもっと宣伝していいと思う。(20代男性)
- ●相澤コレクションは県の財産と思いました。まとまって寄贈されて良かったです。寺泊にもたびたび行きましたが、そこで見たことのない作品が今回見れて、とても良かったです。(40代女性)

写真・昭和の肖像1945-1989

5月24日(土)~7月27日(日)



- ●充実してました。第一枚目、あの日に太陽を写した人が新潟の人だったとは!恵比寿の写真 美術館には何度も行きますが、こんな歴史的に意味深い作品を所蔵していることを、新潟の この展示で初めて知りました。(40代女性)
- ●東京大空襲の炭化した遺体など、平和ボケと云われる近年、もっともっと多くの人に真剣に見て頂くようになればと思います。(60代男性)
- ●社会に対する写真家の姿勢が、時代ごとに変わってゆく様子がよく分かりました。(50代男性)
- ●昭和22年団塊の生まれなので、戦後のすぐの写真には涙があふれました。懐かしかったです。(60代男性)
- ●中身が濃く一度では見きれないので、また来ます。始まりと終わりを太陽でじんな時でも、どこから見ても、誰が見ても、太陽は太陽。いろんなことを考えました。(50代女性))

ポーラ美術館コレクション モネ、ルノワールからマティス、ピカソまで 8月9日(土)~10月5日(日)



- ●もう少し1800年代の方のが見たかったです。ルノワールのアネモネがよかったです。(10 代か性)
- ●良かった。特にフォーヴィスムの作家、作品は大好きなので感動した。(30代男性)
- ●ポーラ美術館の絵を見るのは2回目です。ルソーの絵がいいですね。(50代男性)
- こういう展覧会を見て、本場フランスなどの美術館に行きたくなる衝動にかられるようになれば成功であろう。(40代男性)
- ●ジョルジュ・スーラの点描画法で描いてある絵が気に入りました。あとピカソの絵も面白くていいと思いました。(10代女性)
- スペースもちょうどよく、全体をちょうど見渡せて、いったりきたりせず鑑賞できました。ありがとうございました。実家に帰っている時にピカソを見られて幸いです。(40代女性)
- ●一日中見ていたいようでした。名画の本物をたくさん見ることができて感動しております。 企画ありがとうございました。(50代女性)

佐藤哲三の時代

10月11日(土)~12月14日(日)



- ●郷土の画家を深く掘り下げた展示であった。哲三の描写の変化(深まり)に胸打たれるものがあった。風景、静物が特に好ましく感じた。非常にゆったり作品が見られた。(50代女性)
- ●山本芳翠氏と新発田とのつながりが分かりとても興味深かったです。素晴らしい展覧会でした。(40代女性)
- ●実は岸田劉生の(冬枯れの道路)がもう一度見たくて来館しましたが、佐藤哲三の作品に本当に感激しています。児童の絵なども展示され、楽しく、また感心して見ることができました。(40代女性)
- ●佐藤哲三展のために東京から来ました。こんなにたくさんの作品を見ることができ、幸せです。神奈川県葉山の美術館で見て実に気になる作家でした。洲之内徹の著作を読んで以来です。本当によかった。(50代女性)

現代の美術表現―素材と技法

12月23日(火)~1月29日(木)



- ●ギャラリー・トーク拝聴しました。丁寧な解説で分かりやすかったです。丸山直文の展覧会を見て、この人は次に何を描くのか、とてもこの後が楽しみに思ったことを覚えています。(50代男性)
- (千葉から)わざわざ来た甲斐がありました。レベルが高くて驚きました。フェルメール展の混雑ぶりと比べてお得感いっぱいです。(40代男性)
- ●作品に近づいたり、裏側から見られたりと興味深かったです。案内の方も親切に説明して下さり、助けになりました。(30代女件)

展覧会イヴェント Plek Um

写真・昭和の肖像展 ギャラリー・トーク

5月24日(土)



展覧会出品作品の所蔵館である東京都写真美術館の藤村 里美学芸員から、作品の見どころや時代背景について詳し くお話していただきました。懐かしい光景に皆さん見入っ てました。

講演会 「フランス近代美術の歓び」

9月28日(日)



ポーラ美術館学芸部長の荒屋舗透さんから、ボーラ美術館のコレクションを中心とするフランス近代美術の楽しみ方をお話いただきました。 受講者にクイズを出したり音楽を流したりと、楽しい講演会でした。

トーク・イベント 「父・佐藤哲三を語る」

10月11日(土)



佐藤哲三の長男である佐藤現さん、長女である早房響子 さんをお招きして、家族のこと、新発田時代の思い出など について語っていただきました。両氏ともに父である佐藤 哲三への想いを、熱く、そして率直に語って下さいました。

ミュージアム・コンサート

11月2日(日)



佐藤哲三の孫でバイオリニストの早房あかねさんにミュージアム・コンサートをお願いしました。展示室の中で、哲三の作品に囲まれながら、バッハの無伴奏バイオリンのためのバルティータ第3番を鑑賞しました。

ーク・ダグラス、ホセ・フェーラー、ドナルド・サザーランド、アンディ・ガルシア、ジェフリー・ライト、デビッド・ボウイ、エド・ハリス、バル・キルマー、そして映画監督のマーティン・スコセッシ・・・、これらのスターの共通点、それは画家を演じたことのある映画人だということです。順にゴッホ、ロートレック、ゴーギャン、モディリアーニ、バスキア、ウォーホル、ボロック、デ・クーニング、スコセッシ監督は黒澤明の「夢」の中で、ゴッホを演じています。名前だけ聴くとイメージと違うスターもいますが、やはりプロフェッショナルで、皆、上手く演じていました。さて今後の映画界では、アル・バチーノ、アントニオ・バンデラス、吸血鬼映画「トワイライト」の新鋭、ロバート・パティソンが、それぞれ同じ画家を演じることが決まっていますが、誰でしょう。共通するのは演技が「熱い」こと。答えはサルバドール・ダリ。「Dali」、「Dali and I: The Surreal Story」、「Little Ashes」の3本が制作されます。個人的にはアル・パチーノの最もエキセントリックな演技を

愉しみにしています。(藤田裕彦)

を運転するようになって、国内のあちこちへ出か けることが多くなりました。旅の目的は景色と温 学芸昌 コラム 泉と食べ物飲み物ですが、小さな美術館や資料館を巡る のも楽しみのひとつ。この1年で印象に残っているのは、 まず小淵沢のキース・ヘリング美術館。真っ黒な展示室 や、天井の異様に高い変型展示室など、外観も奇抜な建物 は一見の価値あり。9月、鳴子の日本こけし館にずらりと並 ぶこけし達に感動(第54回全国こけし祭りに合わせ、意気込んで鳴子へ。 温泉神社でのこけし供養やこけし奉納、こけしコンクール、こけしパレードなど各種 行事あり。ちなみに祭りのポスターはポエムグラファー沿田元氣が手がけています。イラスト レーター杉浦さやかとヌマ伯父の共作・鳴子マップも入手)。こけしといえば、福島の西田 記念館でも、こけし研究の第一人者・西田峯吉氏の素晴らしいコレクションを 見ることができます。実家の近く、茅ヶ崎の海沿いに建つ開高健の旧居も記念 館になりました。船室のような落ち着きのある室内には、釣道具や生原稿が満 載です。最近では、喜多方市美術館での茂田井武展(挿絵画家)の丁寧な展示が 印象的でした。大きく堂々としたものよりも小さく控えめなものが好きなこと と、職場で広い展示室を相手にしている反動なのか、こじんまりした施設に心 ひかれるのです。これからも小さな発見を楽しみに、旅を続けます。(池田珠緒)

芸員ね…イスに座っていて楽だね」という、久しぶりに会った叔父との会話にわずかに軽蔑の匂いを感じ、少しムキになり反論してしまった。とはいえ、これまで何度となく出会ったような場面ではある。快適な展示室で静かに座る監視人、これが美術館学芸員の変わらぬ一般的なイメージなのだろう。もちろん、時に人手が足りず監視に出ることもあるのだが。一方で、人に胸を張って主張できるだけの学芸員たる仕事をどれだけ果たしているのか、現状は実に心許ないばかりである。いったい「学芸員」とは、その存在意義、役割とは何だろうか?今さらながらよくよく考えてみなければわからない問題であり、決して自明のものではないだろう。もっとも断言できるだけの自信さえあれば何ら問題はないたろうが、少なくも今の私にはないと告白せざるを得ない。いや、自

明のものとせず、自問しながらいくしかない、それだけは明言でき ようか。すばらしい作品、作家と出会い、心が動かされる度に何 かを確認させられるような気がして、身が引きしまる。原 点は、そこなのだろう。(澤田佳三)

日、ロンドンへ行ってきました。パーリントン・ハウスの王立芸術院で開催中の「ビザンティウム330-1453」展を見るためです。これを逃したら今後30年は見られないという貴重な機会でしたので、6ヶ月の長い会期中のいつかは行かねばと思い、ずっと前から同僚たちに根回しして休暇を奪取し(少人数の交代制職場のゆえに連続して休暇を取るのが難しいのです)、高い燃油サーチャージに泣き

ながらも何とか飛行機の切符を手に入れ、新潟空港からソウル経由で行ってきました。展覧会の実行委員長がチャールズ皇太子、ギリシア系の財団が強力なサポートをしているという展覧会ですので、それこそ世界各地に散らばっている名品が一堂に集められたわけです。展覧会グッズも充実していまして、ミュージアム・ショップではいろいろと買い込んでしまいました。ロンドンでは他に、大英博物館では、以前新潟にも至宝展の時にいらしたシーラ・キャンピーさんが企画された「シャー・アッパース」展、そしてテート・ブリテンでは「ヴァン・ダイクとイギリス」展、テート・モダンでは「ロトチェンコ&ポポワ」展が開催中でした。(高思埃)

佐藤哲三の時代をふり返って

新潟県立万代島美術館 参事・業務課長 小見秀男

昨秋10月に開催した「佐藤哲三の時代」は新潟県を代表する画家佐藤哲三 (1910-1954)の作品紹介が主眼でしたが、併せて佐藤が育ち、作家生活を送った新発田を中心に展開した北蒲原地域における美術文化史の光景にも焦点をあてる試みでした。長く溝口藩の城下町だった新発田は文化的な土壌が豊かで明治の後半以降、洋画家を中心に県内でも有数の美術作家輩出の地であり、芸術文化活動も盛んな土地柄です。この様な恵まれた文化的基盤を背景に佐藤は多くの先輩や仲間の画家たちとともに絵を描き続けたのです。そこで展覧会では佐藤と関わりのあった画家の作品も一緒に展示して佐藤哲三の生きた時代の北蒲原の洋画を振り返ることにしました。県立美術館としては郷土の美術史を一つの地域に焦点をあてて紹介する初めての企画です。

それでは、展覧会をふり返りましょう。最初は明治中期から長く新発田にあった初期洋画の名作、山本芳翠の〈裸婦〉(1880年・岐阜県美術館)の展示で始めました。何故〈裸婦〉がの声もありましたが、白勢和一郎がパリから新発田に持ち帰った経緯をお伝えし展示の意図を理解してもらいました。新発田洋画史の序章です。次はメインの佐藤哲三のコーナーです。油彩、素描、ガラス絵120点で構成、代表作はほぼ網羅出来ました。今回はご遺族の協力で未公開の大判の素描を多数展示でき、中でも農婦の素描は佐藤がふるさとの「農」の空間を如何に大切にしていたかを伝えていました。また、筆者が長く探していた会津八一遺愛の風景画が北方文化博物館の協力で初めて展覧会で展示出来たことは学芸員冥利に尽きます。「〈みぞれ〉はすごい。風土、

作家の人間性が作品にあふれていて心に響きました。(60代男性)」の声のように北国の晩秋の季節感を象徴的に描いた代表作〈みぞれ〉は多くの人の感動を呼びました。新たな哲三ファンも生まれたようです。続いては佐藤の先輩、仲間の画家たちです。作品調査には新発田市の職員の大変な協力を得ました。作品の殆どが新発田市所蔵だからです。若き日の布川勝三、富樫寅平、大瀧直平、末松正樹、上野省策、桂重英、神田豊秋、哲三の兄重義らの作品が並んだ会場は作品同士が語り合っているようで、さながら同窓会の趣です。新発田からお見えの人を中心に皆さん、作品を前にとても懐かしそうに思い出話に花を咲かせていました。さらに梅原龍三郎、高畠達四郎、河野通勢、芹沢銈介、棟方志功、藤牧義夫らの一室も設けました。哲三の東京の作家たちの関わりを示すためです。彼等と哲三が交信した書簡類も陳列し交友の一端も紹介しました。展示の最後で多くの来館者の関心を呼んだのが哲三が加治村の子供たちを指導した児童画による学芸会のようなコーナーです。佐藤の美術教育者としての業績に讃辞が寄せられました。

一通り、会場内を辿ってきましたが、最後に来館者の声をもう一つ紹介させてください。「県立美術館だから出来る、県立美術館でしか出来ない企画展でした。学芸員の調査・研究の成果が表れていました。今後もこのような学芸員の力量が発揮される展覧会を希望します。(40代男性)」。このような理解あるエールに接し、県立美術館の使命を改めて噛みしめています。

新収蔵品紹介

末松正樹 (大工 高野氏の像(素描))1932年



「佐藤哲三の時代」展に出品するためにお借りし て、その後寄贈していただいた一点です。末松が 故郷・新潟県新発田で佐藤哲三らと交流する中で 残した素描で、20代前後の若者たちが開いた洋 画研究所のために、2階の部屋を貸してくれた高 野大工店の店主を描いています。簡潔な線と明暗 で筋肉質な体型と顔立ちが表され、どことなく焦 点の定まらない目の表情がモデルの特徴を浮き 上がらせています。

行田魁庵・他 《新潟年中行事絵巻》(##5)江戸末期



斉の神や白山参り、鰯の地引き網、 盆踊りなど、江戸末期の新潟の年中 行事がいきいきと描かれた全長8 mにも及ぶ絵巻。なかでも湊祭の行 列の克明な描写は圧巻です。「花鳥 風月」展の会期中に展示予定。詳細 は会期が近づきましたら美術館ま でお問い合わせください。

所蔵品紹介

林潤一 《緑韻苒々》

紙本潜角 1995年



「萬々(ぜんぜん)」とは、草木が盛んに生い茂る様子を 表す言葉。深い緑色から白色へのグラデーションが美し いこの作品の前に立つと、白く発光する幻想的な草むら に足を一歩踏み入れ、まるで自分の体が生命力に溢れ る葉や茎に包み込まれるような感覚に陥ります。

見る者を誘い込むようなこの画面には、実はちょっ とした仕掛けがしてあります。白い部分には和紙が貼 られており、微妙に厚みの異なる紙の向こう側から絵 具や箔が透けることで、繊細な色調の変化がもたらさ れるのです。細部に目をこらせば、幾重にも重なる和 紙、岩絵具、箔など様々な材質の組み合わせによって 画面が出来上がっていることに気づき、日本画の画材 が持つ表現の豊かさに驚かされます。印刷物ではな く、実物を間近に見て、日本画特有の画面の質感や輝 きを実感していただきたいと思います。

林潤一は京都の画家。写生を基本とする丁寧な描 写と透明感のある明るい色彩で自然を描写していま す。当館では林の作品5点を所蔵しており、「花鳥風 月」展ではその全点を展示予定。林の描く繊細かつ艶 やかな植物の世界をお楽しみください。

2009年度の所蔵品展のご紹介

新潟県立近代美術館と新潟県立万代島美術館で所蔵している6,000点を越える作 品の中から、テーマをもうけて新たな切り口で作品を紹介しています。意外な作品や 隠れた名品に出会えるチャンスです。ぜひとも気軽にお立ち寄り下さい。

松永真のデザインと亀倉雄策賞の10年

12/12(E) = 2010 @ 2/14(H)

2010年 2/27(土) - 3/31(水)

松永真は1940年に生まれ、国内外を問わず今日最も精力的に活躍し ているグラフィックデザイナーの1人です。近年の仕事では言えば、フ ランスの煙草ジタンのパッケージをリニュアールするデザイン指名コ ンペに参加し、世界6か国20名のデザイナーの中で見事に採用されま した。2006年には第9回亀倉雄策賞も受賞しています。亀倉雄策賞は JAGDAの初代会長を務め、広くデザイン界にも影響を与えた亀倉雄 策氏の業績を讃え、グラフィックデザインのさらなる発展をめざして 遺族の寄付により設立されました。その運営はJAGDAに委託され、 1999年より毎年『Graphic Design in Japan』応募作品の中から、最 も優れた作品とその制作者に贈られています。新潟県立近代美術館・ 万代島美術館では亀倉雄策賞受賞作品を第1回展より収蔵してきまし た。本展では松永真氏より寄贈頂いたデザインの代表作と、第1回展よ り第10回展までの亀倉雄策賞受賞作品をあわせて紹介します。



松永真(ジタン・ブロンド・レジェール)

花鳥風月

日本には「花鳥風月」という言葉 があります。人々は四季の移り変 わりを敏感に感じ取り、季節ごと の植物や生物、情景を大切にして 暮らしてきました。そして、それら は日本の美術や文学の主要な テーマとなり、豊かな作品を生み 出してきました。本展覧会では、戦 後から現代の日本画を中心に、作 品に息づく自然の美をお楽しみ いただきます。



林潤一《嬰要花(春)》1998年

新潟県立近代美術館の企画展

[開館時間] 午前9時~午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)

[休館日] 月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)。年末年始。臨時休館あり。



〒940-2083 新潟県長岡市千秋3-278-14 TEL: 0258-28-4111(代表) http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/

- ■東海道五十三次とジャポニスム
 - 2009年3月7日~4月5日
- ■油絵事始めリアリズムを求めて一日本近代洋画への道 2009年4月11日~5月31日
- ネオテニー・ジャパン ― 高橋コレクション 2009年7月21日~9月10日

土田麦僊

2009年9月19日~11月3日

- あふれる詩心 ― 版画と陶芸 川上澄生/棟方志功/養藤三郎 2009年11月21日~2010年1月24日
- ■マルチ・アーティスト阿部展也 2010年2月16日~3月28日

新潟県立万代島美術館

The Niigata Bandaijima Art Museum

T950-0078 新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内 万代島ビル5F TEL:025-290-6655 FAX:025-249-7577 URL: http://www.lalanet.gr.jp/banbi/

開館日

午前10時~午後6時(観覧券発売は午後5時30分まで)

休館日

月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、 年末年始、展示替期間

観覧料

般/310円(250円) 大学生·高校生/150円(120円) 中学生·小学生/無料

)内は20名様以上の団体料金。企画展は展覧会ごとに料金が異なります。 ※障害者手帳·施育手帳をお持ちの方の観覧料は無料です

新潟県内の高等学校等が、教育活動として美術館に団体引率をする場合 所定の用紙で事前(見学の一週間前まで)に申請をすることにより、観覧料 が免除されます。美術・工芸の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご 利用いただけます。

W

0

S Α C C Е S

新潟駅から-·約15分 (万代ロバス乗場より「佐渡汽船」行または 「新湖市観光循環パス」に乗車。「朱鷺メッセ」にて下車。)

■ タクシー -約25分 ■ 徒歩

新潟空港から

-約20分 自動車(有料駐車場有り) -■ 新潟中央I.C料金所から

■ 紫竹山I.Cから… 信濃川ウォーターシャトル(水上/〇)

·約5分

■ タクシ ●三井生命ビル ■ 新潟ふるさと村から…… ■ 新潟市歴史博物館から

0